



北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第102号

ピアソン便り

2022. 2. 10

発行人：福井 洋之（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

NPO 法人ピアソン会事務局

(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

Tel. FAX 0157-31-1215

ピアソン記念館内

午前 9:30 ~ 午後 4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

川村イカノ、金太郎親子の消息

ピアソン会理事 玉置 義弘

四年前、ピアソン便りにピアソン夫妻のもとで働いた川村イカノさんについて書きましたが、今年になって、イカノさんと共にピアソン邸に住んだ息子の金太郎さんのお孫さんと連絡を取ることが出来ました。

以前に、帯広にある「十勝の活性化を考える会」のブログでピアソン便り（第78号1頁、筆者文）のイカノさんの記事を取り上げていただき、それを偶然見たお孫さんが、昨年の8月にブログのコメント欄に「こんにちは。金太郎の孫です（実は孫がいっぱいいますが）たまたまこの記事に行きつき、思いがけず祖父と曾祖母に出会えて感激しました。二人共に恵庭の墓地に仲良く眠っています。この度はお話を取り上げて頂きありがとうございます。という書き込みがありました。」という書き込みがありました。この書き込みを書いた方と何とか連絡を取りたいと思って

いたところ、今年になってピアソン記念館にお孫さんから連絡があり、金太郎さんについての話を電話で聞くことが出来、その時に聞いたお話をピアソン便りに掲載することを快く承諾していただきましたので今回

書かせていただきます。

イカノさんと金太郎さんは写真/ピアソン邸花畑で客人を迎えるの写真。後列向かって左2番目がイカノさん（右側はイカノさんの姪）。前列左から2番目が金太郎さん。



庭市に住んだようです。金太郎さんには長男、次男、長女の3人の子供さんがおり、今回連絡を下さったのは恵庭市出身で埼玉県在住の長男の息子さんでした。長男と次男の方は亡くなられましたが、長女と長男、次男の奥様は恵庭市にご健在との事です。特に長女の方は金太郎さん宅の隣に十数年暮らしていたので、イカノさん、金太郎さんについて一番詳しいとの事です。恵庭市にはイカノさんと金太郎さんのお墓があり、お孫さんが小学生の時にあった金太郎さんの葬儀の様子をはっきりと記憶しているとのことでした。ピアソン夫妻の帰国後、金太郎さんとイカノさんがいつ北見を離れたか、また帰国後のピアソン夫妻との交流はあったかは、長女の方が解るかも知れないとのことでした。金太郎さんはイカノさんの養子になって

いるのですが、その経緯なども長女の方がわかるでしょうとの事。また金太郎さんには、「熊之助」という弟がいたと教えていただきました。

小池創造牧師が50年前に出版された「田舎伝道者」では、金太郎さんは端野町で砂利運搬業をしており、先年（1966年）、交通事故で亡くなられたと聞いていると書いていますが、お孫さんの話では、金太郎さんはピアソンさんの計らいで札幌工業学校に進んだ後、川村カ子トさんに旭川の「川村カ子トアイヌ記念館」を継がないかと言われたが、「自分はサラリーマンになりたい」とトラックを買って運送業を始めたと聞いていると話してくれました。当時としては珍しい外国製のトラックを持っていたそうです。「なぜ交通事故で死んじゃったんでしょね？」とお孫さんには不思議がっていましたが、これは私も同感です。

また金太郎さんのひ孫にあたる方が、札幌工業高校（旧札幌工業学校）に在学しており、昨年（2021年）の第32回全国高等学校ボクシング選抜大会ミドル級で優勝しています。金太郎さんのお孫さんは、ちよつと自慢できるんですとおっしゃっていましたが、全国大会で優勝とはすごいですね。金太郎さんとイカノさんについて、まだまだ知りたいことが沢山あるのですが、今後とも協力いただけるのと事なので、また新たな事や詳しい事が解ればピアソン便りで報告いたします。

「ギョツラフ訳聖書とピアノン宣教師」

昨年年末、愛知県の知多郡美浜町の郷土史研究家、久田健吉氏より、「音吉哲学思想陶治の物語」と題した本の寄贈を受けた。副題には『音吉表現のギョツラフ訳聖書を読む』とある。



で、故田村牧師（当時当会初代事務局長）が記している文を引用し、説明に変わります。

「ピアノンさんとギョツラフの聖書」

久田氏が「ピアノン記念館」にこの貴重な研究本を寄贈してくださったのは、当会発行の「ギョツラフ訳聖書と新共同訳聖書対照復刻版」を読んでいたことによるのですが、何故ピアノン会発足時に、故田村喜代治牧師（当時事務局局長）が、当会の自費出版第2号として、「ギョツラフ訳聖書と新共同訳聖書対照復刻版」（ピアノン会1999年1月発行）を発行するに至ったのか、また「ギョツラフ訳聖書」とピアノン宣教師の関係など、それらを紐解いていこうと思います。

日本語で最初に出版された聖書

最初に、当会発行「ギョツラフ訳聖書と新共同訳聖書対照復刻版」（1999年1月発行）の解説の項

ピアノン夫妻が野付牛（北見市）に住んだのが1914（大正3）年で、85年前（原文ママ）になる。十五年間、この町の住民として過ごされた。この町の人々は御夫妻のことを、今も忘れずに敬愛の念を抱いている。不思議な感化と印象を与えた人物である。その原点を辿ってみると、一冊の聖書が浮かんでくる。ピアノンさんが米國エリザベス市の牧師であった父親より譲り受けた珍しい聖書によって、日本への興味と関心を抱き、更に生涯を、日本のために宣教師として献身へと導かれたものであった。

フが日本人へ聖書を伝えようとした同じ心、同じ使命をピアノンさんも抱き続けた事のしるしである。一八九二年、岩手県の盛岡に行き、片腕となって協力してくれる三浦徹牧師と出会い、略注聖書の出版を計画、準備を始めたようである。16年後の1907（明治40）年、旭川で最初の略注新約聖書を出版された。この時、多年の念願が達成できた記念として父の形見であるギョツラフの聖書を明治学院の図書館に寄贈している。（野付牛に移り二年後に、更に「略註新約全書」を発刊した。これがピアノン聖書として全国的に頒布されたものである。再版《都合5回の改版重版印刷》を重ねたが、離任の前の昭和二年に最後の改版を発行して帰国された。

「展示されたギョツラフの聖書」

ピアノンさんと深い関係がある日本最初の聖書を復刻して当記念館に展示したいと考えたが、容易なことでは入手できない。そこで上京して、原本を所有している日本聖書協会を訪ねた。「求めよ一門を叩け」との教えを実行したところ快く承知して頂き、一二〇頁のコピーを頂き、天に昇ったような感激を味わった。

折角の機会に、ピアノン会結成を記念して、一六一年前（原文ママ）のヨハネ福音書と最近の新共同訳聖書とを対照して発行することになり、その編纂を佐藤全氏が担当、製本は京都の林義雄氏の御好意で完成された。

写真／ピアノン会出版の復刻本

日本で現存するギョツラフの聖書は左記の八冊である。年代別に



冬の寒さを乗り切る料理！

元「レストランベルポック」シェフ三股さん



(1) 漬け汁を作る

- 穀物酢 0.5ℓ
- オリゴ糖 大きじ2
- 塩 小さじ2
- ロリエ、シナモン、ナツメグ、ブラックペッパー、鷹の爪（1本ママ）、粉の唐辛子、ラー油を加えても良い。

(2) 野菜は切り分けタッパーにいれます

玉葱、赤、黄のパプリカは縦に切り分け、オクラはヘタを取り、ブロッコリーは小分けで横にスライス、ゴーヤは綿を取りスライス。

(3) 漬け汁にキュウリ（1本ママ）入れ煮立たせ、タッパーに入れた生の野菜に漬け汁とキュウリを入れる。それらが冷めたらタッパーを冷蔵庫に入れる。1週間で食べられるようにする事。

食欲増進とストレス解消の食べ物として 手作りピクルスのレシピ

見ると次の通りである。

- ① 一八五九年へボン博士の持つてきたもの 東京神学大学
- ② 一九〇七年 ピアソンさんの持参したもの 明治学院
- ③ 一九三二年 米国聖書協会より日本聖書協会
- ④ 一九七五年 英国聖書協会より日本聖書協会
- ⑤ 一九三八年 米国伝道協会より京都同志社大学
- ⑥ 一九七七年 奈良県天理図書館(その他、個人所有のもの二冊)

尚、研究家の調査によると、一八三七年に発行されたのは一六九〇冊であったのに現存しているのは十六冊に過ぎない。又、木版で初摺のものは③から⑥のもの四冊、二回目のもは①の一冊、三回目のもは②のピアソンさん持参のもので、各版木の字体が二〇〇ヶ所位の異同があると指摘されている。

九年前の北海道新聞(平成一・五・一九)の朝刊に、「最初の日本語訳聖書函館のどこかに」と題する記事が掲載されていた。それによると、「二八五五(安政)年、函館に二隻のイギリス軍艦が寄港し際に乗組員の通訳が、密かに物資を運んでくれた船頭さんに人目をさけて『ギユツラフの聖書』六冊を手渡した。」との内容であった。その事実がイギリスの新聞に報道されていたので、もし現存しているならば、日本に渡った最初の貴重な

聖書という訳である。お心当たりの方は日本聖書協会に連絡をということであった。一四四年前の話である。

その通訳とは、私の推測では三人の漂流漁師の一人の「音吉」で、ジョンオトソンという名前で1854年英艦マリナー号の通訳として、安政元年の日英交渉に立会している。晩年、マレー人の妻の故郷シンガポールに住み、キリスト信徒として、また漂流した日本人の帰還に尽力した人物であった。

「ギユツラフ聖書の由来と内容」

先年、三浦綾子さん「海嶺」と題する小説で、この由来などを発表された。

カール・ギユツラフは、1803年ドイツに生まれた。ルーテル教会の宣教師となり東南アジアの殿堂に従事し、英領マカオに滞在中、三人の日本人漁師に出合った。彼らは尾張国から食糧などを江戸に運ぶ千石船・宝順丸の乗組員であった。一八三二年の秋に遠州灘沖で台風にあい、一年数ヶ月太平洋上を難破しながら横断。米国の西海岸に辿りついた時、かろうじて生き残った者たちであった。原住民の奴隷になっていたのをハドソン湾会社の現地支配人に助けられ、四年後ロンドン経由で日本へ帰国途上の身であった。

ギユツラフは彼らと生活を共に

しながら、聖書を日本語に訳そうとしたが、無学な漁師の知識には限界がある。しかし、ギユツラフの信仰の祈りと熱意と忍耐が不可能を可能にした。

最年長は岩吉(32才)、「音吉」(19才)、久吉(18才)で、いつもギユツラフより、「この仕事は歴史に残る仕事です！神が喜んで下さる仕事です」と云われ励まされたという。一年間の苦勞がみのつて完成し、その原稿がシンガポールの堅夏書房に送られ、翌1837年の春、一六九〇冊出版された。

ギユツラフは刊行したこの聖書を携えて、1837年の夏、3人の漁師と他の漂流民4人とともに「モリソン号」という船で日本に送り届けようとしたが上陸を拒まれ、無念な思いを残して引き返した。(もし上陸できていたら、日本の歴史上素晴らしい功績を残されたであろうと惜しむべき事であった。)

1851年8月9日、ギユツラフ48才で香港で病死した。臨終の時彼は、コリント第一の手紙15章53節の「勝ちを得しむる神に感謝する」との聖句を読み、両手を天に向けて「勝利！勝利！」と叫んで息絶えたという。岩吉もその翌年、香港で死んでいる。(故田日記)

ピアソン寄贈の「ギユツラフの聖書」

ピアソン宣教師が父から譲り受

け、日本に持って来た聖書には次のような表示が残されている。



「この書物は私の父、牧師D・H・ピアソン博士の所有になった。私の父はその若かりし頃、アメリカ、ニューヨーク・エリザベスで教育に従事していたジョン・T・ハルゼイ牧師(ジョン・T・ハルゼイ牧師夫人の妹キャロリン・G・オークリーはピンダリー校長の先妻)と一緒に仕事をした。私は今この書物を明治学院図書館に寄贈することを名譽に思う。ジョージ・P・ピアソン 旭川・北海道・日本1906年9月24日

伝えられるところによると、ピアソン宣教師は、プリンストン大文学部で、日本語を履修していたらしい、また、師の日本伝道への目的は、『日本人のための日本語の完全な聖書を作りたい』との思いがあったと聞いている。師は、来日28年の歳月をかけ、北見在住の1916(大正5)年それを実現、俗に言う「ピアソン聖書」「略註舊新約全書」である。故田村牧師は、ピアソン宣教師の思いを、私たちに残してくださったのだ。(伊藤)

広告見本

年6回掲載で、
年額 10,000 円です。

3 cm × 5 cm
この大きさが
原寸大です

そばとガレット

地人須維
las chjin

味処そば!!

北見市内常盤町1丁目5土曜日・日曜日 (11:00 ~ 14:00)
電話の予約制 ☎ 61 ~ 4729

このことなら、よっしーへ!!

ふるまっしーん 届けおめがねよっしー

TEL:0157-57-3664

TEL:0157-57-3664

TEL:0157-57-3664

「ニュージージーランドからの便り」第31回



ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏

2021・12・4

―ピアソン記念誌とDVD

◆今日は曇り気温20度、数日来的寒さです。ピアソン記念館記念誌とDVDが郵便受けに届きました。有難うございます。内容を探索するのが楽しみです。昨日買っていたレタスの種を蒔きました。雨の予報で、タイミンが良かった。豆と人参はよく育っています。

◆昨日から、ニュージージーランドは新しくコロナ感染症の「交通信号灯」システムへと移行。それは、ワクチン接種者は「接種済証明書」携帯で大幅な行動の自由が許され、特に、レストラン、カフェ、バーが解放されています。けれども、人数やスペースの制限がまだあります。毎日百人以上の感染者が出続け、特にオークランド地方ですが、今日は98人です。

◆国内の旅行制限はここ2週間以内には終わるでしょう。しかし、地域性も問題で、接種率が都会ほどには高くなく、特にマオリ住民で接種率の低さがあります。

◆ファンガヌイまで南下したいけれど、地域的にワクチン率は低いので、多分年明けまで待つことになるでしょう。私や他の家族たちは皆元気で。では、お礼の気持ちを含めて グラハム・ハード

2021・12・24

―メリー・クリスマス

◆ここは暖かい夏の天候が続いて、気象予報では明日も良いようです。ホブソンヴィルまで車で出かけ、姉たち家族も集まって姪のところへクリスマス・ディナーを楽しみます。

◆海岸沿いのポフツカワの木（ケリスマスツリー）には多くの赤い花が咲いています。

2021・12・30

―ハッピー・ニュー・イヤー

◆選り抜きの興味深い記事・写真、有難うございます。特に嬉しかったのは、尺八奏者方の写真を見記事で菅原翔山先生が表彰を受けられたと知ったことです。先生はまさに受賞にふさわしい方です。

(注：2021.12.11 創立75年、新都山流尺八の北見幹部会「新名称「尺八北見会」―経済の伝書鳩)

◆姪の家でのクリスマス家族の集いは素晴らしかったです。姪夫婦

と夫の母、姉夫婦、弟と私でした。◆昨日庭の池にピンクの睡蓮が咲いてびっくり。◆北見の多くの親しい方々に新年のご挨拶を送ります。



豊作のプラム

2022・1・12

―ファンガヌイから今日は

◆お便りの中の馬淵さんの記事は特別です。ご夫妻は地域に貢献されています。(注：北海道新聞1/11 オホーツク・地域の話題 小清水町ルバーブ生産グループ代表・40年前NZでルバーブに出会う)



「北見農園」のコテージ

◆美しい夏の天候で、ここ農園コテージでの滞在はとても良かったです。明日、ファンガバラオアへ帰ります。隣の農園従兄弟が、大都会見物のため一緒に北上します。◆今年のプラムはこれまでになく大豊作で、昨日と今日はバケツに幾つも収穫し、もう車の専用箱に移して旅立ちの準備完了。途中のオークランドには分けあう親しい人たちが大勢います。◆昨日撮ったコテージ写真送ります。北見の真冬の寒さに留意し、お元気で。

2022・1・16

―返信

◆お気遣いありがとうございます。トンガでの事態は凄まじい響きでしたが、ここでは皆変わりありません。◆暑い日が続いています。従兄弟の休日、昨日は姉夫婦のところへ家族が集まって楽しかったです。今日はこの地域周辺を見てまいります。

教会創立 1900年

日本キリスト教会 北見教会

主日礼拝・毎週日曜 午前10時15分

牧師 森下一彦 (学校法人ピアソン学園北見幼稚園理事長)

〒090-0035 北見市北斗町2丁目1-30

TEL/Fax 0157-23-3361 e-mail k.mori64@outlook.jp

編集後記

前回の編集後記で、『原因不明のままでの減少ですので、また爆発的な感染増加があるのではと不安ものります』と書きました。10月・11月の感染減少が、現在北見でも爆発的に増加しています。じつと、過ぎるのを待つしかないのでしょうか？

(理事兼事務局長) 伊藤 悟